

# センターだより

令和4年1月14日

No. 73

東濃西部少年センター TEL23-3455 FAX26-8813

所 長 今 井 宏 明  
指導主任 林 千 尋  
事 務 柴 田 弥 生

## 「三地区合同研修会」ありがとうございました

昨年11月、新型コロナウイルス感染症が終息に向かい「三地区合同研修会」を無事開催することができました。多数の指導員の方々に参加いただき感謝しています。研修会では、松下邦雄氏(前中京高等学校 校長)から「子どもたちとの関わりから生まれるもの」という演題で講演をして頂きました。

松下先生が講演の際に配布された資料の一部を紹介させていただきます。



### 「子どもたちとの関わりから生まれるもの」

講師 松下邦雄 氏

はじめに

- ①青少年健全育成の意義と、少年センターの責務・補導員の尊い存在意義
  - ・これからの我が国を担う子どもたちの健全育成に、心血を注ぐ皆様の尊さ。
  - ・子どもの目線でアプローチ、温かくサポートすることで救われる
- ②高校生徒指導34年を振り返る
  - ・生徒指導に関わった思い出は全て「宝」、指導員の方々と共通することを確信
  - ・厳しく且つ苦しき出来事も、過ぎてみれば価値ある思い出に。
  - ・幸福な人生の礎につながる出会いに

#### 1、高校時代の生徒指導を振り返る

- ①生徒指導業務の実態(昭和50年代～)非行事犯処理に暮れた時代
- ②学警連、各生徒指導連絡協議会等の意義

#### 2、生徒に学んだ指導理念、教師の成長は生徒に学ぶ謙虚さから

- ①「認め」「励まし」「見守る」ことが鉄則
  - ・生徒の人格を認め、意欲を高めるために「励まし」、その成長を根気強く「見守る」、全ては生徒のためにあり。教えが育つ術は何かを求める。
- ②指導の結果は生徒の回答が示す
  - ・良き結果を生む指導は、何が良かったのか。思いが通じない結果は、何が原因なのか。明確に示す生徒の反応、回答が全てを物語る。ワンパターンが通じない難しい側面とは何か。生徒一人ひとりの個性は多様であり、常に流動的な側面に対応する。

- ・生徒が教えてくれた指導力の向上。  
共に歩む心を醸成する。共感が最大の力。

- ・年齢や立場にある上下関係と人間としての権利と義務。  
人間社会における縦の関係と横の関係のバランスを認識する。上目線の弊害は大きく、心の琴線に触れる思いやりの尊さが最も重要である。  
・細やかな誠意は「心の絆」を、小さな気配りは大きな「信頼」に結びつく。

③人間として共に喜びを分かち合うことの素晴らしさ

- ・立場を超えたかけがえのない「縁」を結ぶ、生涯に亘る教育の実践。

### 3、薄れてきた地域力の虚弱化

①日本の少子化、その弊害

②家庭教育の温度差

③過保護、過干渉に苦悩する子どもたち

### 4、指導者に求められるサポート力

①孤独感の解消

- ・第三者の温かい目線、温かい手を差し伸べる
- ・共感の尊さ、立場を超えた「同志」の芽生え

②原点回帰、温故知新、不易流行

- ・人間の基礎基本は他人に迷惑を及ぼさない言動
- ・公德心がもたらす「秩序」が平和な社会の原点
- ・好ましい人間社会の構造、縦型社会と横型社会のバランスを保つ
- ・世の中の不文律（お互いに暗黙の中で了解している）、真実は永遠不滅

### 5、少年センター指導員の使命と責務

①温かく支えるアプローチ、スタンス

- ・相互理解から生ずる、相互信頼  
子供たちに勇気を与え、目的意識を確立させることが相互理解の原点
- ・父性原理と母性原理の意義  
飴と鞭、北風と太陽、厳しさと温かさ、人を見て法を説け。子ども達の性格、環境（家庭、学校、生育、友人等）を認識した対応

②真の優しさとは、真の厳しさ

- ・優しさに裏打ちされた厳しさ。厳しさに裏打ちされた強さ、強さに裏打ちされた正しさ。従って、正しい人間は優しい人間を意味する。

③偶然の出会いを、必然の出会いに

- ・偶然の出会いに感謝する社会を形成する
- ・一人ひとりの子どもの心に刻まれた思い出の尊さ  
（苦しい時や辛い時に、ふと思いだされる人柄とその教え）
- ・将来ある子ども達の健全育成に努め、揺れ動く時代の道標となる存在。
- ・子ども達の人格を認める姿勢、意欲を高める励まし、成長を見守る温かさ

最後に

一期一会、子どもたちとの出会いを大切にする尊さ、子ども達の夢、希望、願望を叶えるために、皆様方のお力で少年センターの活動を社会全体に広げて下さることを期待します。

【講話を聴かれた方々からの感想を頂きましたので、一部紹介します。】

- 私の子育ては多感な年代の子どもたちの時期で、辛くて悲しい思い出です。しかし、松下先生のお話を聞いて、現在が穏やかに過ごしていられるのは、良き思い出、心の宝になっているからだ気づきました。  
少年指導員をさせてもらい、声かけができることは大切な仕事であると改めて認識し、努めていきたいと思いました。本当にありがとうございました。
- 松下先生が身を持って体験されたお話で、すごく心に届きました。時には、子どもを信じてあげることができない中、ひたすら信じて子どもに対応されてきた先生の姿勢を尊敬します。  
「指導の結果は、生徒の回答が示す」と長い目で見守っていて初めて結果が見えてくるものです。しかし、なかなかゆっくりと長時間じっと見守り、指導することが今の世の中には無いように思います。
- 「優しさに裏付けされた厳しさ。厳しさに裏付けされた強さ。強さに裏付けされた正しさ。従って、正しい人間は優しい人間を意味する。」この言葉がとても心に残りました。今思うのは、「子どもの弱さは、家庭や地域の弱さが大きく関係している」ということ。自分たちがそれを理解し、子どもたちに向き合うことの積み重ねが、次の一歩につながると思いました。ありがとうございました。
- 私は現在、学校で生徒指導をしています。思春期の中、とても大変な時期ですが、「認める」「励ます」「見守る」ことで、子どもたちは変化していくことがわかりました。  
子どもと良い関係ができれば理解し合える。松下先生の講話で聞いたことを学校にも広め、子どもたちのために考えて指導していきたいです。
- 「学校の先生方にも是非聞いて頂きたい話だなあ」と思った。問題行動が今は表面化し難い時代、内在化した問題への対処法がこれからは必要だろう。少年指導員は、指導者ではないが、学校教育の問題や生徒指導の問題を分かりやすく聞けて良かった。
- 指導員をさせてもらっていますが、「コロナ禍で何をどう指導すべきか」考えていましたが、松下先生の講演を拝聴して改めて指導の在り方を学んだと思います。  
指導員という役割を受けるにあたり、「利他の心で接する」と決めてお受けしましたが、コロナ禍で何もできないことを心苦しく感じていましたが、今一度頑張れます。
- 「問題のある生徒はいない」「問題行動はある」  
子どもに対して、とにかく「信頼する」ことが重要であり、子どもと同じ目線で接することが子どもの心に通じる指導であること教えて頂きました。
- 子どもたちの立場を尊重し、子どもたちの立場に立って寄り添う姿勢を貫いてこられた松下先生の真摯な生き様に心を打たれました。大切な言葉を胸に刻みながら一指導員として、一親（爺）として、出来そうなことから生かしていきたい。
- 指導員として試行錯誤しながらでしたが、「私たちが行ってきた声かけ活動が間違っていなかった」と、今日の講演を聞いて再認識することができ嬉しかったです。

## 「各地区班長会議」より

昨年から続いているコロナ禍のため、様々な行事や会議が中止されてきました。コロナ感染が落ち着きを見せ始めた昨年の10月から11月の期間に「班長会議」を実施することができました。

各地区ではグループごとに「声かけ活動」を実施していただき、その様子は日誌などで拝見してきました。とても熱心に、そして温かいお声かけをして頂いて、感謝しています。班長会議では、そうした活動の交流と共に、指導員の方々の思いを聞かせて頂き、とても貴重な時間となりました。

特に、指導員の方々から聞かせて頂いた話の中で、印象に残り嬉しく受け止めたことを紹介させていただきます。

- 「指導員として活動させて頂いて、子どもたちからの気持ちの良い挨拶に触れることができています。」  
「とても気持ちの良い仕事」をさせてもらっています。
- 「小中学生だけでなく、高校生とも接することがたくさんあります。どの子も気持ちよく挨拶してくれます。『今の子は素直だなあ』と、感じます。毎日のふれ合いを通して、『信頼関係』が築けているようにも思います。」
- 「小学校の下校時間に合わせて一緒に下校して頂いているおじいさんがみえます。そのおじいさんから、子どもたちは『昔の思い出話』を聞けるのがとても楽しいようで、とても微笑ましい光景です。」
- 「コロナ禍ということもあってか、街を回っても子どもたちと出会うことがとても少なくなっています。他のグループのように、『回る時間帯を変更したり、グループを2つに分ける』などの工夫も大切なように思います。」

## 「少年センターへの相談・あれこれ」（11月～1月）」

少年センターへ相談及び連絡をいただいている中で、連絡者の方のご了解を得ている内容について、一部紹介をさせていただきます。

- 中学校の生徒指導主事の先生からの連絡です。  
「うちの学校に通う生徒が『少年センター』に相談メールを送り、そのことがきっかけで生徒への対応が素早くできました。これからも連携をお願いします。」
- 「多治見市文化振興事業団施設長会（11月）」の中で、公民館長・交流センター館長の方々へお話をする機会を頂きました。会の終了後に「公民館と学校との連携の在り方」についての相談があり、熱心に対応してみえることに感心しました。
- 少年センターへは時々、「無言電話」が掛かってきます。そのほとんどが「非通知」の場合が多いです。全ての無言電話が「いたずら電話」とは捉えていません。  
「何かを伝えたかったのでは・・・。」「SOSを発信したかったのでは・・・。」  
そんな思いで電話を受けています。「安心して話せる少年センター」でありたいです。